

新入部員募集
TEL03-3838-4788木村まで
練習屋年1回程度、夜多数
歯ごたえのある対戦相手求む

開成6組野球部
委細面談 秘厳守
写真履歴書不要
女子歓迎住込可

傷害保険加入交渉中
敷金3礼金1
駐Sなしベットの相談
子息開成入学に有利



6組連合軍を3連破

仕上げは無安打無失点

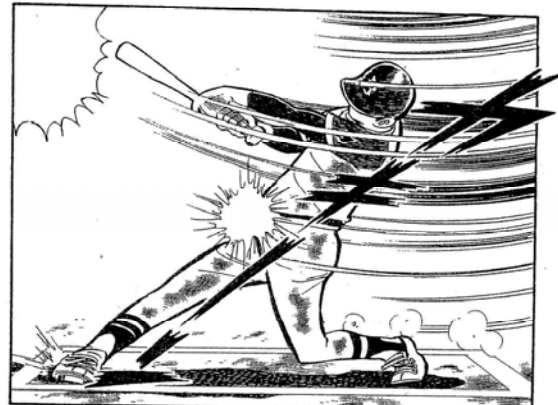
[6組]	打	安	点	四	三
1(左)石垣	3	1	0	1	1
2(三)高水	3	1	0	1	0
3(一)野上	3	0	0	0	1
打横井	1	0	0	0	1
4(捕)佐藤	2	1	0	2	0
5(投)篠田	3	1	2	1	0
6(右)檜垣	3	1	0	1	0
7(中)本吉	2	0	1	0	0
中横山	1	0	0	1	0
8(二)神原	4	1	1	0	0
9(遊)中島	3	0	0	0	1

28 6 4 7 4

[連合]	打	安	点	四	三
	22	0	0	3	6

盗塁：石垣、高水、佐藤
[連] 1
失策：篠田 [連] 1

6組野球部は11月14日開成学園球場で行なわれた対連合軍最終戦を無安打無得点試合で勝利し、本年度4戦全勝、都合無敗の6連勝を飾った(連合軍側見解6)

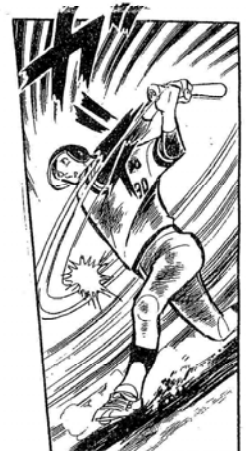


石垣いきなりクリーンヒット

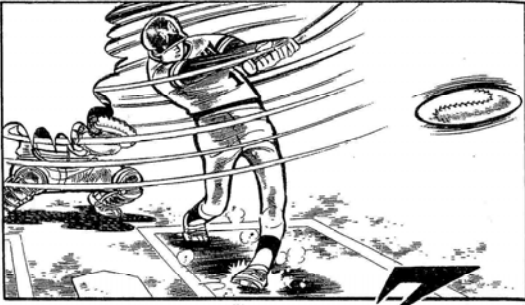
11月14日	観衆5万
試合開始	14時00分
勝利投手	篠田6勝
敗戦投手	市川2敗
連合軍	0 4 0 0 0 0 0 0 0 0 4
6組	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 4
開成学園	

大量点をバックにマウンドに昇った篠田は変化球のコンビネーションよく連合軍を押しさえ5回一死までパーフェクト。完全試合を意識しベンチも色めき立っていたが、結果的には3与四球、6奪三振で完封、ノーヒットノーランを達成した。連合軍は3回から救援した須川が落ちる変化球で好投し、以降6組を散発3安打に封じただけに先発市川の不振が悔やまれる結果となった。前試合で連合軍の応援団にベンチを占拠され20人近くの敵軍との戦いを強いられた6組もこの試合は欠々に若手綺麗どころが赤い声援を送ったのが功を奏し

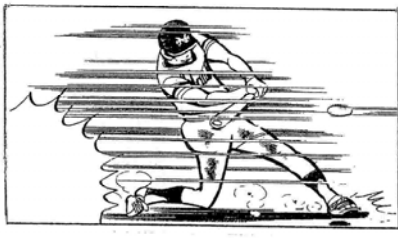
勝2敗)。連敗の後を受け、最後のチャンスに賭けた連合軍は、開始2時間前に集合、練習を行ない試合に臨んだが、ベース配分のミスが仇となり休養十分の6組の前にあえなく零敗を喫した。この試合6組は先発市川の立ち上がりを攻め、先頭の石垣がいきなりセンター前にクリーンヒットを放ち盗塁後、市川の暴投の間に三進、2番高水が四球を選びすかさず二盗、野上のショートゴロで石垣が飛出し本塁で憤死したが、なお佐藤が四球を選び一死満塁と攻め立て、5番篠田の左前打で2点を先制、三盗した佐藤が横山の投ゴロの間に生還、さらに神原の中前打で篠田が速攻で連合軍の戦意欲をくじいた。



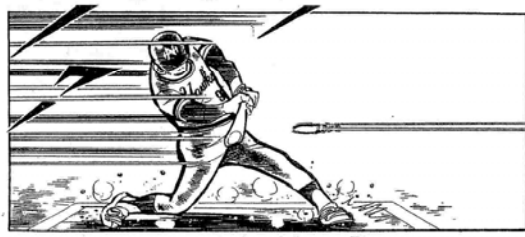
神原中前タイムリー



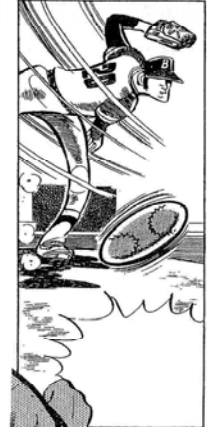
佐藤レフト前ヒット



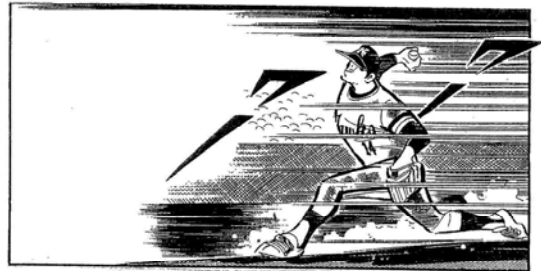
檜垣三遊間ヒット



高水センター前ヒット



初回市川ノックアウト



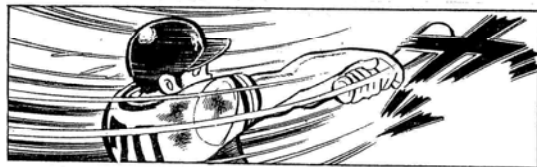
篠田ノーヒットノーラン

連合軍を3連破、本年の最終戦を完勝で飾り、嬉しいオフを迎えることとなった。

プロの判定もやっぱり6組

8月28日 観衆5万 主審鳥田

試合開始	17時25分	城北中央
勝利投手	篠田4勝	
敗戦投手	西宮1敗	
連合軍	0 2 2 1 0 0 0 5	
6組	1 0 0 2 1 0 0 4	



4番木鋪二塁打2打点

[6組]	打	安	点	四	三
1(一)石垣	3	0	0	0	1
2(遊)高水	3	0	0	0	1
3(捕)佐藤	2	0	0	1	0
4(三)木鋪	2	1	2	1	0
5(投)篠田	3	1	1	0	0
6(中)中島	3	0	0	0	3
7(左)横山	3	0	0	0	1
8(二)神原	3	1	1	0	1
9(右)楢垣	1	0	0	0	1
右横井	0	0	0	0	0
	23	3	4	3	8

[連合]	打	安	点	四	三
	28	6	3	1	5

二塁打: 木鋪
盗塁: 篠田、楢垣 [連] 1
失策: 木鋪3、 [連] 2
暴投: [連] 2
捕逸: 佐藤



決勝打を放った神原二塁手

[6組]	打	安	点	四	三
1(三)高水	2	1	0	1	2
2(右)横井	2	0	0	0	0
中本吉	1	0	0	0	0
3(一)野上	3	2	1	0	0
4(捕)佐藤	3	0	0	0	1
5(投)篠田	3	3	0	0	0
6(中)右楢垣	3	2	1	0	0
7(二)神原	3	1	0	0	1
8(遊)中島	3	0	0	0	0
9(左)横山	2	0	0	0	0
	25	8	2	1	8

[連合]	打	安	点	四	三
	28	5	1	2	4

二塁打: 篠田2、楢垣 [連] 1
盗塁: 高水2、佐藤、楢垣 [連] 3
失策: [連] 2

6組-連合軍 打撃成績 (8戦: 11.11.14 まで)

氏名	試合	打席	打数	得点	安打	打点	盗塁	犠打	四球	三振	二塁	三塁	本塁	失策	打率
篠田	8	21	19	8	10	8	4	0	2	1	4	1	1	1	526
楢垣	8	15	12	4	6	3	2	0	3	1	0	1	0	2	500
木鋪	5	9	8	2	4	7	0	0	1	0	1	0	0	0	500
野上	2	6	6	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	333
佐藤	7	19	16	2	5	3	2	0	3	1	2	0	0	0	313
篠田	8	21	14	8	4	0	3	0	7	1	1	0	0	0	286
高水	8	20	15	5	4	3	3	0	5	3	1	1	0	0	267
神原	8	20	20	2	5	4	0	0	0	3	0	0	0	1	250
横山	8	17	15	2	2	2	0	1	1	3	0	0	0	0	133
横井	8	19	19	4	1	1	0	0	0	0	6	0	0	2	053
横井	8	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000
川添	1	2	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	500
本吉	2	3	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	000
井浦	8	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	000
村松	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	000
後藤	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	000
6組	8	187	161	41	44	33	14	1	25	31	8	6	1	10	273
連合軍	8	140	131	10	28	14	4	0	9	31	3	2	2	10	214

連合軍の実績は記録がなく不明確な部分あり。
第3戦で誤りのあった楢垣選手の記録は修正済み。

8月28日6組の対連合軍戦3連勝(連合軍側見解3勝2敗)の後を受け、城北中央公園球場に主審にあの完全試合投手鳥田源太郎氏を迎え第6戦は行なわれた。初回連合軍は二死後須川が三塁ゴロエラーで出塁、さらに中の三塁ゴロが内野安打となり、一、二塁、西宮のレフト前ヒットで先制点を挙げた。しかし6組は2回、先頭の4番木鋪が四球で出塁、先発西宮の牽制球悪投の間に二進、さらに暴投の間に三進、篠田の中間打で1点差さらに捕逸と盗塁で三進した篠田が西宮の暴投の間に本塁を陥れ同点とした。さらに3回6組は代った市川から9番楢垣が死球で出塁、石垣の投ゴロ、高水の3塁ゴロの間に三塁に進んだ後、3番佐藤が再び死球を得て一、三塁とし、久々4番の座に座った木鋪のレフトオーバーの二塁打で逆転。さらに4回振り逃げで出た中島が横山の三塁ゴロの間に二進、神原の左前打で

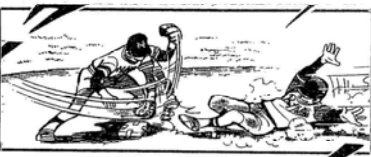
6組対連合軍第7戦は6組4勝(連合軍見解4勝2敗)のあとを受けて、奇しくも続戦と同じ10月10日城北中央公園球場で行なわれた。連合軍は満を持して登板した須川、6組は連投篠田の投げ合いで僅差の好ゲームとなった。連合軍は応援軍団を大挙して相手ベンチに送り込みそのベンチを占拠するという暴挙に出た。その魂胆は6組選手に力力の消耗を図るにあると見られた。孤立援軍のない後藤サブマネもベンチに入るを認められず、その軍団の氣勢に圧倒され、あたたかも列車で去っていく男をホームの蔭から見送るかの如くその活躍に小さく手を合せて祈る以外になすすべを知らなかった。さて、この連合軍および銃後の恐妻軍団の理不尽にもかわらざる戦況はあくまで6組有利に展開した。飛車角石垣・木鋪を欠く6組は、トップに座った高水

10月10日 観衆5万

試合開始	13時10分	城北中央
勝利投手	篠田5勝	
敗戦投手	須川2敗	
連合軍	0 0 1 0 0 0 0 1	
6組	1 1 0 0 0 0 0 2	



野上先制タイムリー



2盗塁を決めた高水三塁手

が初回須川から四球をもぎとり、すかさず盗塁、日野間のパスボールの間に三進し、横井三振で一死後、3番野上の三遊間タイムリーで先制、さらに2回レフトオーバーの二塁打で出た篠田を真二つに切り裂く二塁打で還えし2点目。連合軍の打ち手に憤慨する6組にとってこの2点はすでに勝利を得るに十分な得点であった。なお反撃を試みる連合軍は3回日野間がレフト線に二塁打を放ち三盗、西宮の旨いセンター前ヒットで生還し1点差に詰め寄った。しかし慎重

且つ大胆に攻める6組バッテリーは後続を断ち、最終回一死一、二塁のピンチも難しい三塁ゴロを高水がさばいて併殺に打ち取り1点差の勝利をものにした。6組はその後決定打とはならなかったが、高水、神原等が長短8安打を須川に浴びせ、次回への登板に無言の圧力をかけた。肩の衰えを隠せない須川はコーナーを巧みにつく技巧派だが、低めからボールになる変化球を選球されると組立てが苦しい。